

実践事例⑭ 練馬区立貫井中学校

1 取組・活動名

「スポーツイベント（12分間走大会・キンボール大会）」

2 取組・活動のねらい

- 体育委員会主催の行事を企画・実施することで、達成感と自信を身に付けさせるとともに、他の生徒にも主体的・計画的に取り組むことの良さを感じ取らせる。
- 始業前、昼休みを使って体力向上に向けた取組を行い、生徒の運動やスポーツへの興味、関心、意欲を高める。
- 運動は誰でもどこでも気軽に親しめるものであるという感覚を養い、誰とでも楽しく運動に親しめる資質を育てる。

3 教育課程上の位置付け

「保健体育・1時間」「特別活動・始業前と昼休み」

4 実施上の工夫

- ・ 体育委員会が運営の中心となることで、どんな生徒でも自覚をもって取り組み、主体性を育むことができ、自分たちで企画・運営ができるようになるのと指導した。
- ・ 運動・スポーツへの関心を高めるため、走ることが好きな生徒のための「12分間走」と、運動が苦手な生徒でも参加できる「キンボール大会」の2本立てにした。
- ・ 保健体育（体育理論）「運動・スポーツの多様性」の単元で「キンボールスポーツ」を題材にした授業を行い、キンボールへの興味をもたせる工夫をした。

5 本取組・活動の内容



「保健体育（体育理論）」（9月実施）

<運動・スポーツの多様性>

- ・ キンボールを題材にし、運動やスポーツの「行う」「見る」「支える」の観点から大会を企画することを課題として学習を進めた。
- ・ 3つの観点から大会運営を学び、さらに今まで知らなかったスポーツを学ぶことで、様々な運動・スポーツの関わり方を学習することができた。



「12分間走大会」（11月実施）

- ・ 始業前に体育委員会主催で実施した。
- ・ 希望者のみの参加で、全校生徒の3分の1程度が参加した。運動部に所属している生徒が多かったものの、普段運動をしていないので体力を高めたいという意識で参加した生徒もいた。
- ・ 3日間実施し、各学年男女別で3日間の合計距離が一番長かった生徒を朝礼で表彰した。



「キンボールスポーツ大会」（12月実施）

- ・ 昼休み時間に体育委員会主催で実施した。
- ・ 4人1組で学年男女別対抗を行い、各学年優勝チーム男女各3チームと教員チームで決勝戦を行った。
- ・ ルールが簡易ですぐに取り組めること、準備がほとんど必要ないこと、体力や技能による差があまりないことから、学年を超えて楽しく取り組むことができた。

6 成果

- ・ 12分間走に参加した生徒が予想以上に多かった。みんなと一緒に走ることで連帯感や充実感を感じ、楽しさを覚えることができた。
- ・ 今まで知らなかったスポーツに触れることで、これまでとは違う運動やスポーツの楽しさを知り、興味、関心、意欲を高めることができた。
- ・ 運動が苦手な生徒でも楽しむことができるスポーツがあること、体が不自由でもできるスポーツの存在を感じ取ることができた。
- ・ 運動の得手不得手に関わらず、楽しむことができるようにするにはどうすれば良いかを生徒自身が考えることで、他者を思いやる気持ちを育むことができた。
- ・ 生徒主体で企画を行ったことにより、生徒自身が大会の企画や運営の方法を学ぶ機会となり、次年度への弾みとなった。
- ・ 保健体育の授業で学んだ学習内容を、「始業前の時間」や「昼休みの時間」という中学生にとって「日常」の機会に生かすことができた。